

作品研究) 社会実装を目指した作品研究の報告 —作品「Marblence (マーブレンス)」についての報告—

Report on Research for Social Implementation of Artworks —Report on the Artwork “Marblence”—

阿部高広¹⁾ 真島唄良々²⁾ 進藤 葵²⁾ 市村安珠²⁾
菊池信二¹⁾ 西将隆¹⁾ 栗本佳典¹⁾ 富田知子¹⁾

抄 録

本学専攻科2年後期では、短大から専攻科までの学びと習得した技術をもとに、社会実装を想定した授業を行う。「美容デザイン演習Ⅱ」はその一つであり、学生が外部のデザイナーおよびモデルとの協議を重ね、コンセプトを構築し、デザインを創作していく過程を学ぶものである。学生が協議する過程で作成したコンセプトをもとに、共同作品となる「Marblence」を制作した。

キーワード：アール・ヌーボー 社会実装 写真表現 美容芸術 ヘアメイク

I. はじめに

本学専攻科2年後期では、短大から専攻科までの学びと習得した技術をもとに社会実装を想定した授業を行う。「美容デザイン演習Ⅱ」はその一つである。この授業では学生が、外部のデザイナーおよびモデルとの協議を重ね、コンセプトを構築し、デザインを創作していく。今回は、学生個々の作品の他に、教員も参加した美容芸術の共同作品の制作も行った。衣装は、文化服装学院のデザイナー三宅拓海氏の衣装を採用した。デザイナーとモデルとの協議は学生が実施し、学生が作成したコンセプトをもとに教員がデザインを考案し、作品の制作を行った。学生と共に共同作業を行うことで、新しい視点で教授方法を見つめなおすこともできるのではないかと考えた。

各担当は次の通り。

- ・真島唄良々 (コンセプト、メイクデザイン)
- ・市村安珠 (ネイル)
- ・進藤葵 (ベースメイク)
- ・阿部 (ヘッドピースのデザインおよび制作)

衣装およびヘアメイクデザインのコンセプトは以下に示す。

1) 三宅氏による衣装コンセプト：

「男らしく」「女らしく」は、ありふれた昔からある固定観念。私が提案する「らしく」は、男女のあるべき「らしく」ではない。日常を「楽しく」

彩る服であり、あなたが主役として胸を張って生きるための「らしく」だ。「らしく」とは本来、固定観念のためにある言葉ではない。その人の持つ“個性”を表現するための言葉だ。「らしく」に縛られている男女に対しての解放を手の広がり で表現した。

2) ヘアメイクデザインコンセプト：

Marble+essence(本質)→「混ざりあう自分らしさ」自分らしさは、様々な経験を通して多くの色が混ざり合い「私らしく」が出来上がっている。そのイメージからヘアメイクのコンセプトを「マーブル」とした。マーブルと変化可能な有機的な形状をイメージしている。

II. 作品紹介

- 1) タイトル「Marblence」
- 2) 制作方法および各担当のねらい

①メイク1 (ベースメイク：進藤)

コンセプトを表すペイントメイクがクリアに表現できるように、モデルの肌色を生かしながら、均一な肌色になるように意識して、ベースメイクを施した。

②メイク2 (ハンド・ペイントメイク：真島)

まず、フェイスペイントAの白を手に取り、モデルの顔に直接手形をつけた。これは最初に強い印象を与えることをねらい、作品全体のベースとなる表現として取り入れた。その後、フェイスペイントの赤・青・カラーアソートの黄色をスパチュラで少しずつのせ、色が混ざり合うように、マーブル状になるまでペイントした。色同士が混ざりすぎないように意識しながら、ランダム性を持たせることで、動きと立体感のある表情を作り出した。アイメイクは、

1) ABE Takahiro, KIKUCHI Shinji, NISHI Masataka, KURIMOTO Yoshinori, TOMITA Tomoko

2) MAJIMA Urara, SHINDO Aoi, ICHIMURA Anju

山野美容芸術短期大学 1) 教員 2) 専攻科2年生
連絡先: 〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530

モデル本来の素材や顔立ちを活かすことを重視し、濃く作り込みすぎないようにした。ブラウン系の色味を少量使用し、陰影をつけることで、ナチュラルながらも立体感のある目元に仕上げている。全体のフェイスペイントが強いいため、アイメイクは引き算を意識し、バランスを整える役割として取り入れた。

③ヘッドピース (阿部)

ヘアピースは衣装の解放のイメージを強調するようにその人物が持つ解放されたエネルギーやパワーをヘアピースの形・動き・色で表現した。

ホワイトファイバーにヘアジェルを使用し、エネルギーの暖かさや連続性を表すため、曲線のデザインを施した。(写真1参照)その後、アクセントで色の混ざり合う様子を表現するために、微調整しやすいエアブラシを使用し、色が重なるようにペイントを行った。

1つのパーツに、ワイヤーを取り付け、動きをつけた。さらに、立体的に造形することで個性と躍動感を演出した。(写真2参照)

モデルのボウズヘアスタイルに合わせて、ヘッドピースの土台を被せやすいキャップ型に作成した。また、地毛とヘッドピースの一体感を出すため、地毛が部分的に見えるように土台の形状を調整した。

④ネイル (市村)

本作の衣装コンセプトは、「男らしく」「女らしく」といった固定観念からの解放をテーマとしており、「らしく」という言葉を、本来の意味である「個性を表現するためのもの」として再定義している。また、ヘアメイクデザインでは「Marble+essence (本質)」を軸に、複数の要素が混ざり合うことで形成される自分らしさが表現されている。この二つのコンセプトを踏まえ、ネイルにおいても「混ざり合うこと」「一つに定義できない美」を表現することを目標とした。

ネイルデザインでは、クリアジェルをベースに、複数の色や素材を封入することで、マーブル状の表情や奥行きのある質感を作り出した。赤や青、黄色などの異なる色味をあえて混在させることで、性別や価値観を一色で語れない多様性を象徴している。

(写真3参照)また、色同士が完全に均一にならないよう調整することで、混ざり合いながらもそれぞれの個性が失われない状態を意識した。素材には、レジンパーツ・ビーズ・ガラス調パーツなどを使用し、質感の異なる要素を組み合わせた。これらのパーツは、統一感よりもあえて不均衡さを残す配置とし、見る角度や光の当たり方によって印象が変化するように構成している。これは「固定されらしさ」ではなく、流動的で変化し続ける自己像を指先で表現する試みである。フォルムについても、日常性から離れた長さや立体感のある造形を採用した。

ネイルが視線を集めるパーツであるからこそ、指先が動くたびに異なる表情を見せることで、作品全

体のメッセージを自然に印象づける役割を担っていると考える。手元の動きが強調されることで、衣装コンセプトにある「手の広がりによる解放」の表現とも視覚的につながりを持たせることができた。

今回、ネイルのみの担当ではあったが、他分野の制作意図を理解した上でデザインを行う重要性を強く感じた。自分の担当領域だけに集中するのではなく、作品全体の方向性を共有することで、ネイルが単なる装飾ではなく、コンセプトを支える一要素として機能することを実感した。本制作を通して、ネイルは個性や価値観、多様性といった抽象的なテーマを、素材や技法によって具体的に伝えられる表現手段であると再認識した。

今後は、さらにネイル表現の可能性を広げ、社会的なテーマや個人の内面を指先から発信できるデザインを追求していきたい。

⑤撮影について

写真表現として「モード系の世界」で全体をイメージした。

上半身の撮影であったため、ソフトで明暗がある光により、静かな強さが表現できた。

III. 考察と今後の課題

ファッション・ヘアメイク・ネイル・撮影の各コンテツツにおいてメッセージ性を共有し、作成することにより、お互いの技術がデザインを引き立たせる役割を果たし、作品の表現がブラッシュアップする様子が見られた。また、教員と学生による異なる世代間で作品制作を実施することにより、お互いに美容芸術に対する新たなインスピレーションを育む機会となった。現代では、フリーランスなど個人活動や短期間でのグループ活動が増えている中で、長期的にひとつのチームとして作品発表に向けて制作を継続する機会は重要だと考える。

今後も美容芸術を通じて、固定観念に囚われず、様々な分野の人々が集まって作品制作を実施することで、技術はもちろん、社会性の向上にもつながる可能性があると考えます。

謝辞

制作にあたり、学生にご指導及びご尽力いただきました文化服装学院の森本慧先生、齋藤房枝先生、ご協力いただきましたモデルの HANA KITA 様に心より感謝申し上げます。



写真 1



写真 2



写真 3



